

若事研本報

No. 1 9 4
編集・発行
岩手県公立小中学校
事務職員研究協議会
総務部
平成27年12月7日

特集：第46回設立50周年記念岩手県公立小中学校事務研究大会

平成27年11月6日(金) 会場：いわて県民情報交流センター

50周年記念大会ありがとうございました

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会 会長 高橋 広道



ご多用の中多数のご来賓をお迎えし、第46回設立50周年記念岩手県公立小中学校事務研究大会を開催することができました。ご支援いただいた岩手県教育委員会をはじめ、関係機関の皆様、ご助言をいただいた助言者の皆様、運営に協力いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。閉会后、会場を後にする参会の皆様の満足そうな姿から今大会が好評であったとうかがわれ、安堵しています。また、記念祝賀会へもご来賓をはじめ諸先輩方、各県の会長様、会員の皆様の数多くの参加があり語り合うことができたことも成果であると考えています。

分科会では、一関・盛岡・岩手の各支部から研究発表をいただきました。各支部の研究と実践が広がり、さらに岩手県の学校事務の研究と実践の向上に繋ぐことができたと感じています。発表にかかわられた皆様の一層のご支援をお願いいたします。

全体研究会では、平成28年度全国公立小中学校事務研究大会山形大会分科会発表として特別研究委員会で取り組んでいる「笑顔が広がる いい学校を目指して」～岩手の学校事務で・ん・で・ん・こ～ の中間発表を、助言者として予定している 盛岡大学 福島正行先生とともに行いました。さらに研究を深めていき、岩手の学校事務について全国へ発信したいと思っています。

研究大会の目的は、日々の実践を研ぎ究め、言葉に紡ぎ、広め、より高みを目指していくことであるとと考えています。今大会が目的をしっかりと果たし、明日への活力につながると確信しております。

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会は、50周年という大きな節目を迎えました。学校事務とは何か、学校事務職員の職務とは何かを模索してきた時代を経て、チームとしての学校には学校事務職員の力が重要であると評価される時代となり、明年には「事務長」も実現します。あらためて、互いに研鑽し真摯に職務に邁進するとともに、よりよい学校づくりのために学校事務がなさなければならないことや、私たち学校事務職員が取り組まなければならない課題について、研究実践を深めていかなければならないと強く感じています。

大会までの準備や当日の運営には研修部理事の方々をはじめ、各支部の皆様の協力いただき、充実した大会運営となりました。大会アンケートへはいろいろなご意見が寄せられました。改善できるところ、工夫できるところを次回の大会に活かし、参会の多くの皆様が「参加してよかった」「また参加したい」研究大会にしていく所存です。

あらためて、ご支援・ご協力をいただいた皆様に深く感謝申し上げ、御礼といたします。

第Ⅰ分科会 一関支部

経営参画と研究活動

—経営参画を意識した研究活動（学校事務）のあり方—

経営参画と聞くと、敷居が高く自分にはとても実践なんかできそうにないと思ってしまいがちですよね。この分科会に参加して経営参画の捉え方が変わりました。一関支部では事務職員としての視点での参画を目指し、①事務部運営計画の雛型、②経営計画のしおり、③職員会議資料の雛型の3つを作成し研究しています。中でも②経営計画のしおりにある

「経営参画のピラミッド」というものが、日ごろの業務がどのように経営参画となり教育目標の達成につながっていくか非常にわかりやすく具現化した資料であり感心しました。普段の業務をただこなすのではなく、さらに充実させていくことが経営参画であり教育目標達成になっていくことを念頭におき業務していきたいと思いました。

討議の柱2「今後の研究活動をどのように進めていけばよいのか」では、ジョブローテーションや臨時採用職員増加、ベテラン事務職員の大量退職の中で、今までの研究をどう継承していくかという問題が提起されました。今までの事務研の研究により学校教育環境を良くしてきたものが逆行しないよう環境を整えていく方法を皆で考えていかなければならないと思いました。（参加者より）



第Ⅱ分科会 第1分散会 盛岡支部

「学校事務職員の職務確立をめざして」

—日々の実践と連携をとって学校事務のあり方を探る—

事務研としてこれまで研究してきた事をもとに個人研究から班別研究に移行し事務改善を図り自己のレベルアップを図っていること、関係機関と双方向で連携することにより職務確立をめざしていることの取り組みが紹介されました。

日々の研究活動の中で次の世代の人材を育成することを意識して活動しているということは、中間よりやや上の年代となってきた私にとって、新たな視点をいただく機会となりました。

私たちの日常は学校に1人の事務職員ですが、個人のみではなく組織として取り組むことにより、学校事務機能の強化が図られる、そのことがまた、日々の実践のエネルギーとなり、学校事務職員組織のより強固な基盤づくりとなる、組織の果たす役割の大きさについて改めて実感した分科会でした。（参加者より）



第Ⅱ分科会 第2分散会 岩手支部

「学校（子どもの育成）に役立つ事務職員」

～事務職員の人材の育成・スキルアップをめざして～

県内の事務職員は近年、年齢構成が大きく変化し、また臨時事務職員の割合が増加しています。そうした中で、「人材育成」が今後ますます重要なテーマになっていくことを感じた分散会でした。

第1グループでは、マイ・バトン（引継資料）の取組について話し合われました。後任者へ良いマイ・バトンを渡せるよう、私も日頃から気になったことを記録・整理するようにしたいと思います。第2グループでは、初任者研修がテーマになりました。現在の研修体制は、年度当初の支援のあり方や指導担当者の負担軽減等、より良いシステムを構築していく余地がありそうです。第3グループでは、「スキル」と「オモイ」について意見交換しました。目に見える「スキル」と比べると、「オモイ」はなかなか先輩から学べるチャンスがありません。そうした機会を意図的に設けることが、オモイの継承には必要なのだと考えました。



と、「オモイ」はなかなか先輩から学べるチャンスがありません。そうした機会を意図的に設けることが、オモイの継承には必要なのだと考えました。

一口に「人材育成」と言っても、実に多くの切り口があります。より良い人材育成の在り方について、こうしてあらゆる面で検討を重ねていくことが、私たち事務職員全体のレベルアップに繋がると確信する次第です。（参加者より）

全体研究会

全事研山形大会発表レポート中間報告

『笑顔が広がる いい学校を目指して』

～岩手の学校事務 て・ん・で・ん・こ～

はじめに、来年度の全事研山形大会で岩手県が担当する第3分科会発表についての中間報告が行われました。

山形大会の大会テーマは「自律的な学校経営と学校のガバナンス改革」です。よりよい学校づくりの具現化に向けた理論・実践研究を通して子どもの豊かな育ちを支援する学校事務を追求し、その実現を目指すことを、『学校ガバナンス』を軸に考える…

学校ガバナンスって？と思っていたところ、学校ガバナンスの考え方、捉え方から説明していただきました。そして、それぞれが、身近な子どもの笑顔の広がるいい学校づくりをすることは、いわてのグランドデザインの具現化につながる。方法は違っても（「てんでんこ」でも）目指すものは一つ、「子どもたちの笑顔が広がるいい学校づくり」の一翼を担う学校事務職員でありましょと結ばれました。

その後、この発表に向けて組織された特別研究委員会のメンバーと、全事研山形大会で助言者をお引き受けいただいた盛岡大学准教授の福島正行先生によって、それぞれが考える「学校ガバナンス」についてパネルディスカッションが行われました。

全事研での岩手の発表に向けて、県事務研の一員として、「学校ガバナンス」についてもっと勉強して理解を深めなければと感じました。

（参加者より）



来年度は全事研山形大会へ



発表のあと、全事研山形大会実行委員長の、高橋 忠昭 山形県事務研会長がステージに登壇し、山形大会への参加を呼び掛けました。

同じ東北であることから、岩手からもたくさんの参加を！3ケタの参加者数を期待！と、力強くPRされました。

ぜひ来年、山形へ行きましょう。



功労者表彰

平成27年度県事務研功労者として、一戸町立一戸小学校 久保田 豊さんが受賞されました。おめでとうございます。

久保田さんからメッセージをいただきましたのでご紹介します。



設立50周年の記念すべき研究大会での表彰、本当に有難うございました。

教育を取り巻く環境の変化も激しく課題も山積していますが、実践を積み重ね克服するものと期待しています。本研究協議会の益々の充実発展を祈念しお礼の言葉といたします。



50周年記念展

設立50周年を迎えた県事務研。研究大会当日は『県事研50周年記念展』として、朝早くから記念誌編集委員のみなさんがアイーナホール前に50年を振り返る資料を展示。その中には、これまで



に発行された記念誌のほか、昭和57年3月に作成された「校務事務一覧表」や、50年分の「岩事研広報」などが並べられました。また、記念誌に収められている「座談会」のスナップ写真や編集作業の写真も掲示され、参加者の皆さんも感慨深く眺めている様子でした。



50周年記念誌編集委員会委員長 遠藤 誠子さん（一戸町立一戸中学校）より

『これが最終校正になる。本当にこれでいいのか。まだ見落としがあるのではないか。』最終校正原稿を出す10月1日、やっとここまで来たという思いより不安の方が大きくありました。

約2年前に編集委員会が発足したときは、「時間は十分ある。今までにない記念誌を作ろう。これまでの記念誌の半分以上を占めていた名簿や資料等はDVDに集録し、写真をたくさん載せよう。」編集委員会ではアイデアが次々に出され、企画を考える時期の会議は、とても楽しく、アイデアが出過ぎて意見をまとめるのに苦労したほどでした。

それが、いざ紙面を作る段階になると、50年分の関係資料を集めて記事にするということが思った以上に大変で、時間がかかる作業となりました。「この年度は記事が少ない。資料がないので、これ以上の記事が書けない。退職した先輩に原稿をお願いしよう。引き受けてもらえるだろうか。」ある編集委員は、資料センターに保管されている岩事研広報をすべて読み直し、引用する記事を探しました。写真や資料の提供も呼びかけ、可能な限り当時を再現しようと取り組みました。過去の資料を目にすればするほど、「県事研が歩んできた軌跡を事務職員みんなのものにしたい」という思いが強くなっていきました。

また、「過去をまとめるだけでなく未来につなげるものにもしたい」と考えて座談会も企画しました。「どういうテーマにするか。誰に参加してもらうか。構成はどうか。」構成は考えたものの、実際にどうなるかやってみなければわからないものでしたが、参加してくださった皆さんのおかげで、県事研のこれまでの歩みを継承し未来につなげる内容にすることができたと考えています。

50周年記念誌は、本誌と別冊DVD（動画は入っていません）で構成されています。DVDに集録した資料の40周年以降の分は、総会議案書等の紙媒体からデータに打ち直し、それ以前の分は30周年記念誌をPDFにしました。PDFにするために自分の30周年記念誌を犠牲にした編集委員もいます。また過去の記念誌に掲載されている県事研創成期の貴重な資料もPDFにして集録しました。各支部の協力を得て作成した事務職員名簿は、資料のグラフ作成のデータとするために吟味し活用しました。是非、本誌とDVDの全てに目を通していただきたいと思います。

編集委員会を招集することができない多忙な時期にも作業が停滞しないように、クラウドを使って都合がつく時にいつでも作業ができるように設定もしました。期限が迫ってきて夜8時過ぎまで会議をした日もありました。今、無事に発刊できて、やっと気持ちが落ち着いてきました。発刊後に、記念誌を読んだの感想等が寄せられてきて、「苦しかったけれども、本当にやってよかった！」という想いで一杯です。関わってくださった全ての皆さんに感謝します。この50周年記念誌が、県事研と学校事務職員の“これから”に、少しでも役立つことを願っています。



記念展と記念誌編集委員のみなさん

設立 50 周年記念祝賀会

会場：サンセール盛岡

研究大会終了後、設立50周年を記念して祝賀会が開催されました。
祝賀会は、かつての県事務研会員であった15名の先輩方、たくさんのご来賓の方々にご出席をいただき盛大に行われました。



サンセール盛岡1階大ホール
出席者数124名



ご来賓 太田様のご指名により、それぞれ県民歌を披露する山形県事務研会長と秋田県事務研会長

乾杯 教育事務所連絡会会長
三上 聡 盛岡教育事務所長 様



【特別企画1】
平成12年の全事研岩手大会の様子を収めたDVDが上映されるなか歓談。
懐かしく画面に引き込まれました。



【特別企画2】

わんこきょう
だい
『こくっち』が
登場！
「中に入っているのはだ～れ？」



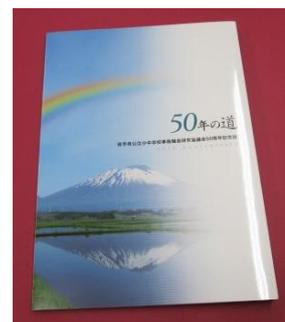
第7代会長兼平トキ子さん。
当時の思い出は、県内各地を自ら運転し挨拶に回ったことと話し、現在は趣味に忙しい毎日、退職後20年になるようですが、今でもバレーボールを楽しんでいるそうです。



「我々事務職員の道は、まさに、高村光太郎の『道程』である」と語ってくださった先輩がいました。

50年前歩みはじめた道のりは、先輩方が築いてきた歴史によって、長く、長く続いてきたのだということを感じました。私たちはその先を、理想を求めて、未来への期待を込めて進まなければならないのだと。

これからつくる道は、どのような道となるのでしょうか。



記念誌 「50年の道」

いわての学び希望基金

今年も研究大会会場で参加者のみなさんからご協力いただきました。募金額は10,524円でした。ありがとうございました。

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会では、「いわての学び希望基金」へ協力しています。この基金は、東日本大震災によって親を失った子どもたちが学校を卒業し、社会人として独り立ちするまでの支援を行う基金です。



来年度の研究大会は 平成28年10月7日(金) です

夏季研修講座

平成27年7月30日(木) 会場：プラザおでつて

今年も100名を超す参加者により、熱心に研修が行われました。

講座は、午前は『被用者年金の一元化による改正について』、『ファシリテーション入門』の2講座から選択して、午後は『プレゼンテーション～自分の思いを伝える・相手の思いを聴くワーク～』を学びました。参加者からは、「タイムリーな話題でよかった」「参加型の研修で、実際に体験でき、自分と向き合う時間を持つことができた」など、有意義な研修であったという感想を多くいただきました。

県事務研セミナーは、平成28年1月7日(木)、プラザおでつてで開催されます。

演題は「チーム学校」の光と陰－学校ガバナンスへの参画という幻想－。名城大学大学院教授 木岡一明氏と、盛岡大学准教授 福島正行氏を講師に迎え、ご講演いただきます。来年度の全事研山形大会のテーマ『学校ガバナンス改革』について一緒に理解を深めましょう。

奮ってご参加ください。

第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会

平成27年8月5日(水)～7日(金) メイン会場：熊本県立劇場

岩手県からは24名が参加しました。「火の国は 心ワクワク 水湧く湧く 緑あふれる熊本から深める絆 全国へ」の合言葉からもわかるように、明るく朗らかで、元気になる大会であったようです。

来年度は山形県で開催されます。

岩手県公立小中高等学校事務職員連絡協議会

平成27年8月28日(金) 会場：サンセール盛岡

岩手県公立小中学校事務職員研究協議会のほか、岩手県公立学校事務長会、岩手県公立高等学校事務職員協会、岩手県立学校事務職員組合、岩手県教職員組合事務職員部の5団体から、34名が出席し、それぞれの活動について情報交流し連携を深め、事務改善等につなげるために行われています。

＜主に話し合われた内容＞ 事務長制と6級格付けについて、新採用職員対応等も含めた人材育成について、研究活動・研究大会の取り組みについて、世代交代を踏まえた人事異動について、超過勤務手当について など